

## 平成20年 第4回定例会一般質問

○議長 横尾 武志君

3番、田島議員の一般質問を許します。田島議員。

○議員 3番 田島 憲道君

3番、田島憲道です。今年最後の一般質問ですが、私ごときが適任かどうかわかりませんが、最後を締めくくらせていただきます。

まずは、きのう、船頭町駐車場で商工会青年部主催のイルミネーション祭りが行われました。関係者の皆さん、寒い中大変お疲れさまでした。寂しいシャッター通りの商店街、元気を出して頑張りましょうとの思いで、農協青年部、町内の飲食店などが加わり、有志による手づくりイベントでした。私たちは、その彼らの思いというものを強く受けとめなければならぬと感じております。

では、件名1、にぎわいあるまちづくりについて。

先日11月18日にまちづくり委員会による2カ所の物産館視察が行われました。どちらも対称的な補助金でつくられ、第三セクターによって運営されています。1つは、国道10号を行き交う観光客を取り込む築上町の物産館メタセの杜、19年度中で年間来客者約34万人、売上約4億円です。もう一つは、地域住民を対象にした地域密着型の生産者市場みやこ町の国府の郷、来客者約47万人、年間売上約6億円です。お互い10分も離れてない場所にあるのですが、どちらも大変な盛況ぶりです。この視察に産業観光課長が行かれております。実は、私も商工会振興員という立場で声がかかり、参加してきました。今回の視察が大きい意味を持ったものにしていただきたいと思い、あえてこの場をおかりしまして皆さんにこの報告を聞いていただきたく、このような形で質問させていただきます。

また、芦屋町の景気は相当落ち込んでいます。景気対策として何かの手だてを早急にやっっていないといけない状況です。物産館もしくは物産直売所の実現性を聞きたいと思います。では、お願いいたします。

○議長 横尾 武志君

執行部の答弁を求めます。産業観光課長。

○産業観光課長 内海 猛年君

それでは、私もこの視察に参っておりますので、ただいま田島議員から、ありましたメタセの杜と国府の郷の視察報告ということで答弁させていただきます。

議員の皆様方には、お手元に資料をお配りさせていただいております。この資料によりまして視察報告ということにかえさせていただきます。

視察に伺いましたのは平成20年11月18日でございます。参加者はまちづくり委員会、このまちづくり委員会は平成16年度に策定しました観光まちづくりビジョンを基本ベースにしてまちおこしができないだろうかという、現在いろいろ協議を行っております。商工会、観光協会、それから行政が行って、その視察といいますか、いろんな取り組みを模索している状況です。そんな諸々の中で、仮称であります、まちづくり委員会を設置しております。

それで、今回、商工会、観光協会、産業観光課で視察に伺っております。

まず、メタセの杜でございます。これは築上町、旧築城町でございます。建設にかかった経過につきましては、築上町では、築城基地周辺に移転跡地として125ヘクタールを超える広大な用地が緑地緩衝地として築城基地の管理区にありました。町にとってはこの移転跡地が地域社会の発展に大きな阻害要因になっていると考え、移転跡地の有効活用を図るため、平成12年度より、築城基地周辺跡地利用計画を策定し、行政機関、JA、商工会、地元自治体からなる検討委員会で協議した結果、農産物展示販売施設の建設及び公園、町民憩いの場、公共の場など地域発展の拠点として整備する方向が示されました。事業の実施に当たって防衛省に陳情した結果、平成14年度に防衛省の新たな補助メニューとしてまちづくり支援事業が創設され、第1号として採択されています。メタセの杜の総事業費は6億7,600万円、そのうち防衛省補助は75%の5億700万円となっており、物産館、交流館、飲食店、トイレ、駐車場、広場などが整備され、平成17年12月にオープンいたしております。

なお、防衛省用地には、物産館の建設ができないため、移転跡地に隣接する民有地を買収し、この買収費用も防衛省の補助対象になっております。

管理運営につきましては、町、JA、商工会、出荷組合が出資した株式会社築城プロヴァンスを設立し、現在、指定管理者を導入いたしております。開設当時より、町内業者育成の立場から、地元産の販売を目的としているため、他町からの仕入れを控えており、あわせて近隣にJAの直売所があるため、出荷農家がメタセの杜に全力を傾けられない状況であります。仕入れ状況は少量多品種ということで、午後3時から4時ごろには品切れの状態になっていました。極力地元産を売りたいという方針から、消費者に対しては目をつぶってもらっている状況です。

売上状況は、平成19年度には4億5,713万円の売上があり、オープン時より順調に売上を伸ばしております。売上を伸ばしている理由といたしましては、メタセの杜が交流館などの複合施設を備え、自然と親しむことができる広場や森林を背景に整備され、ただ農産物などの買い物をするだけでなく、芝生広場やメタセコイヤの森でお弁当を食べたり子どもたちが遊ぶなど、のんびりくつろぐことができるような環境にあるということでございます。

引き続き、国府の郷について概要を報告いたします。

国府の郷はみやこ町、旧豊津町でございます。建設に至った経緯につきましては、旧豊津町の

商工会においては、商工業者の廃業や町外大型店の進出などで地域の活性化は喫緊の課題となっておりました。地元での買い物客をふやすとともに、町外からのお客様をふやすことができないかと考え、商工会主導の中で、平成11年4月より直売所の研究に取り組み、町長や議長への陳情活動が開始され、平成13年1月には直売所推進協議会が発足いたしました。直売所建設に向けての協議を重ねるとともに、町外からの集客を図るために花菖蒲公園の拡張や施設整備にも取り組まれ、平成14年7月には第三セクター豊津まちづくり有限会社を設立するとともに、建設に着手し、平成15年4月にオープンいたしております。

国府の郷の総事業費は8,557万円で、そのうち県補助金が2,176万円、残りの6,280万円はふるさと創生資金が充てられ、展示販売所、事務所、トイレ、駐車場、交流スペースなどが整備されております。管理運営については、第三セクター豊津まちづくり有限会社が行っております。また、有限会社への運営支援や商品の出荷に関する組織として、出荷者で組織された物産直売所利用協議会が設立され、地元だけでは不足する商品は広域的に仕入れるなど、需要と供給のバランスがとれており、品切れの状態は回避されております。

平成19年度の売上は6億1,600万円と、オープン時から順調に売上を伸ばしており、現在まで売上利益の中から町に4,000万円、JAと商工会へは120万円程度返還されております。また、生産者に対しても利益の配当を行ったり、消費者に対しても商品券という形で利益還元が行われております。

売上を伸ばしている背景は、出荷体制の充実による需要と供給のバランスがとれていること、地元のほかに小倉、門司、八幡など北九州方面からも買い物に訪れることや、午前8時と早い時間帯からオープンしているため、北九州市の業者が仕入にやってくる点などが上げられます。

最後に、メタセの杜と国府の郷は車で10分ほどの近距離圏内にあるにもかかわらず、4億から6億と年々売上を伸ばしております。その背景には、周辺施設の有効活用とあわせ、消費者の要求にこたえられる農業者や商工業者、JAなどの協力体制が確立されていること。また、管理運営会社には商工会会長が取締役社長として就任されていることで、民間主導の運営がなされ、消費者や生産者のニーズに合った運営方針が示されることにあると考えております。

以上、視察の報告をいたします。

**○議長 横尾 武志君**

田島議員。

**○議員 3番 田島 憲道君**

ありがとうございます。去年3月にかじやの愛称で親しまれていたハロディーが、独自の駐車場を持たない珍しい店舗ながらも町内では一番の集客を誇っていましたハロディーが撤退してからは、中心市街地である正門通り商店街は全く元気がなくなっております。去年10月からハロ

ディー後店舗の大家がかわってしまっていて、その新しい大家から私は依頼を受け、スーパーの誘致に努力してきました。チェーンストアをいろいろ当たっていますが、どこも商業圏内約3万人と年間売上は約12億は欲しいと言っていて、売上がそれぐらいないと——家賃が100万円なんですよ。家賃を払い費用対効果を考えるなら経営が成り立たないという、そういった回答ばかりで、ハロディーは6億から4億円の年間売上を推移していたと聞いております。

私、去年から何度もシャッターをあけ、改装費用の見積もりをしてもらったかわかりません。そのたびに商店街の人たちや通りすがりの町民が、やっと決まったのかって一喜一憂して来ていました。結果はごらんとおりで、至らずじまいです。ちなみに、どこも1億数千万の初期費用がかかってしまうとのことで、これは居抜き入店でないことが大きな原因なんです。また、あるスーパーは決まりかけていたのですが、昨今の経済事情、金融不況、金融機関から融資を受けられないと、貸し渋りというスーパーもあります。民間活力の活用とありますが、民間も、民間の需要もありますので、よほどの環境を整備して、進出しやすい状況をつくってあげないとなかなか芦屋には来てくれません。そういうことで、この報告書に沿って幾つか質問させていただきます。

最初のメタセの杜は、防衛省のまちづくり支援事業が主な財源です。国府の郷はふるさと創生基金の残りを使ったということですが、そのメタセの補助金です。当時、防衛施設庁のまちづくり支援事業はこのために新設されたものと聞いております。これは防衛省が去年省に格上げとなり組織改変した中で、現在も補助金のメニューとして存在してあるのでしょうか。また、築城で使われて以来、この支援事業は他に出された経緯はあるんでしょうかお尋ねします。

**○議長 横尾 武志君**

産業観光課長。

**○産業観光課長 内海 猛年君**

これは先ほど申し上げましたように、防衛省の新しいメニューということで、築城基地のためにつくったということと言っても過言ではないと思っております。実際、これも補助メニューとして存在しております。まず、メタセの杜以外でこれを活用したかという情報は入っておりません。これはメタセの杜に視察に伺った折には、新田原、それから三沢ですか、こういうような基地周辺の方々が補助金の内容についてお聞きになっておられるという情報は入っておりますけれども、これを活用して使った施設があるかというのは現在わかっておりません。

以上です。

**○議長 横尾 武志君**

田島議員。

**○議員 3番 田島 憲道君**

国ももう厳しい財政事情ということで大変理解しておりますが、沖縄や岩国基地周辺のように、

うるさく騒ぐところばかり大きな周辺対策費の補助金が出されているのが現状であり、私たち芦屋町は民生安定という面から言えば大変お行儀がよく、基地等を抱える自治体としては優等生であると思います。余り大きく騒がないで、この点をアピールしていただき、逆に国のほうから予算をつけていただきたいと思います。まずは周辺対策に使われている補助金について、今芦屋町がいただいている科目と金額を町民にわかりやすく教えていただきたいと思います。

**○議長 横尾 武志君**

企画課長。

**○企画課長 鶴原 洋一君**

防衛省補助というより交付金です。いわゆる基地交付金、これが大体1億程度、それから防衛施設の周辺に関する施設整備に関する調整交付金というものがございます。この調整交付金が6,000万弱、この金額が毎年芦屋町に交付されております。

以上です。

**○議長 横尾 武志君**

田島議員。

**○議員 3番 田島 憲道君**

ありがとうございます。防衛省のまちづくり支援事業の用途は土地の取得にもよいということですが、間違いありませんか。（「はい」と発言する者あり）

この町内、物産館の候補となれる町有地は幾つもあると思います。私なりに幾つか提案があるので、紹介させていただきます。

まずは、まちづくりビジョンで示された道の駅プロジェクトで、交通量の多い国道245号線沿いを視野に置いているということですが、それならやはり競艇場の駐車場ではないかと思えます。外向け発売所の前、朝一丸があるところです。ここは去年12月議会に私が観光案内のサインのことで質問したときに、朝一丸の後方駐車場を非開催日でも開放してもらって、ガードレールを撤去して入りやすくして、簡易トイレを設置してくださいと。利用客が多くなれば自然の流れで直売所などの方向性ができるのではと提案いたしております。

この6月にあったSGレースでも駐車場が連日満車っていうことはなかったように記憶しております。観光案内所を兼ねた物産館を建てるようなことは競艇場の駐車場として用途目的に何か問題があるのでしょうか。

次の候補地として、浜口高浜町営住宅跡、こちらはいかがでしょう。ここは金曜日に今井議員の質問の中で企画課長より答弁がありましたが、民間活力を活用した1戸建て住宅を促進したいとの見解でしたが、ここに生産者市場等があれば買い物に不自由されている町営住宅の高齢者には喜ばしいことであると思います。

次は、船頭町駐車場です。この場所なら、国府の郷にあるような生産者市場がいいと思います。町長の言われる何でも市場構想、町長の思いと重なり合うのではと思います。金曜日にも、ここも企画課長からスーパー級の店舗を誘致したいが、進出する企業は未確定との答弁ですが、国府の郷は箱物にさほどお金はかかっていません。これならすぐにできそうな気がいたしております。

次に、浜崎漁協前の、みっともないあのテトラポットを置いてあるところなんです、ここは公園がありますが、いつも荒れ果てています。一体どこが委託管理しているのでしょうか。この場所に物産館があるなら、漁業従事者にとって仕事がしやすいんじゃないかと思う。そんな距離感であって、なみかけ大橋を通過して海浜公園、観光道路ごと集積施設にすれば、町内を広く縦横できると思います。

ちょっとついでに聞きますが、浜口にあったパチンコ店の跡、防衛省が所有していますが、あそこは今後の使い道など聞いておりますか。あのままの塩漬け状態でよろしいのでしょうか。この町内、非常に狭いです。そんな狭いところなんです、至るところに有効利用されていない町有地や国有地があって、例えば夏井ヶ浜のはまゆう岬や、町に寄贈されて久しい釜風呂跡、一体どうでしょう。いつまで放置されているのでしょうか。

釜風呂の跡は今度初めて有効利用されました。環境保護、地球温暖化等の問題にボランティアで取り組んでいるプロのミュージシャンたちがこの秋にはまゆう群生地に集結しまして、ハマユウの花をもっとふやそうということを目的に、はまゆう音楽祭が開催されました。そこで会場として使われたんですが、世界で活躍しているミュージシャンが多数見えて、芦屋中学校の吹奏楽も共演しました。いい経験をしたと指導教師やご父兄から喜ばれました。また、寄贈されたおばあちゃんが会場に招待されていまして、私が、「いい会場ですね、すばらしい景色ですね、芦屋一ですよ」と声をかけたんですが、「ここが何かに使われたのは初めてです」と大変喜ばれていまして、この方の思いを皆さんどう感じているのでしょうか。

ということで、今これらの4カ所での物産館もしくは直売所の可能性と浜口パチンコ屋さんの跡ですか、及びはまゆう岬と釜風呂跡地は今後どのような使われ方をしていくのでしょうか。各担当課長にお聞きいたします。

**○議長 横尾 武志君**

町長。

**○町長 波多野茂丸君**

それでは、私のほうから。まず、メタセの杜と国府の郷の視察に関して、町内にそういう候補地があるのではないかとということで、6点ほど言われましたので、その1点ずつ、私のわかる限りでお答えします。

まず1点目の245号線沿い、これが朝一丸の船があるところ。これ私が認識しているのは、

芦屋町まちづくりビジョン、この中に35ページ、道の駅に個性のあふれる情報発信プロジェクトということで、芦屋道の駅検討委員会で検討しておりますというふうに書かれておりますので、恐らくこのことはその中でこの場所の利用については検討されるのではないかと。

それから浜口高浜町住跡地、これは、金曜ですか、一般質問の中でも町営住宅ストック活用計画、あそこは1戸建ての住宅地として、町は検討していますという答弁です。

それから、3点目の船頭町駐車場跡地の一般質問でも、ここはご心配されておりますように、中心がシャッター街になっておりまして、特に高齢者の方、買い物をする場所がないと。今までは商工会各賛同の商業集積をしておりましたが、これは町主導でやるということで、具体的に用途地域の見直しをやっております。そういうことで、その作業にかかるという計画になっております。

それから4点目の芦屋港湾跡地、いわゆるテトラポットの工事を実施している場所だと思うんですが、このことにつきましては、常々国交省、県、県の港湾でございます。国交省にもお願いして、あそこは産業港、過去のいろんないきさつの中で、産業港という位置づけになっておるのでございますが、それを今レジャー港に変えていただきたいという強い陳情を常々行っておるわけです。となると、あそこは県有地でありますから、港湾の一環として会計検査委員のほうから多額の税を使っているんで、その有効利用という形の中であそこをテトラポット製造工場として利用していますという回答でございます。これが産業港からレジャー港という形になると、今の形でのあそこの有効利用も可能であると。現在、まだ、あの土地は県所有であると。

それから5番目の浜口のパチンコ屋の跡地、これはご存じのように防衛省の持ち物でございます。先ほど課長の説明にもありましたように、防衛省のいわゆる買収した土地には建物は建てられないという大きな規制があります。

それから、6番目の芦屋釜風呂の跡地ということですが、これはいわゆる山田さんのほうから、あの土地を町で使っていただきたいという、その条件ではないんですが、福祉のために、お年寄りの福祉のようなものにぜひ使っていただきたいという山田さんの気持ちがございまして、我々とすれば議員言われている観光の、いわゆる一等地でございますので、観光目的で何か利用できればと思っておりますが、やはり寄贈された方のお気持ちというのは、やはり大事にしていかなければというふうに思っております。

以上です。

○議長 横尾 武志君

田島議員。

○議員 3番 田島 憲道君

町長が以前議会で言われました、政治とは弱者のために税金を使うと、強者には少し我慢をし

てもらおうと。私は大変この言葉に感銘を受けました。ただ、このままいくと魅力がなくなってきている芦屋町から強者は出ていってしまい、弱者ばかりになってしまっていて、財政が破綻してしまうのではないかと感じて危惧しておりますが、例えば自衛官の幹部あたりが折尾や浅川、岡垣などに移っていくのはどうなのでしょう。子どもの高等教育を受けさせるためにはやむを得ないということではないでしょうか。

政治のだいご味は決断することだと思います。緊迫した財政の中で、行政主導による歳出カットは痛みを伴いながらもかなり成果を上げています。しかし、耐震構造などの優先順位もわかりますが、今100年に1度あるかないかの未曾有の金融恐慌と言われている状況です。このままでは我々働き世代が先に倒れてしまうのではないかと考えています。

そこで私は、対照的なこの2つの物産館と直売場を競艇場駐車場と船頭町の駐車場とに両方設置できないだろうかと考えています。1つは観光客取り込み、もう一つは地域住民のためです。もしくは、2つは無理というならば、どちらの機能目的を兼ね備えたものをつくる、もしくはどちらか1つであっても窮地に陥った商工業者が一筋の光となるのではと思います。一番喜ぶのは交通手段を持ってない高齢者と生産者である農家や漁師や商店主の出店している人だと思います。町長、どうかここで今年を締めくくる政治決断をいただければと思っております。

**○議長 横尾 武志君**

町長。

**○町長 波多野茂丸君**

昨今の経済状況、もう日本国中、世界、もういわゆるアメリカ発ですけども、実態経済、今から恐らく、もう現在来ておる訳ですけど、年明けとともにかなり厳しくなっていくだろうと思います。行政といたしましても、今後の景気対策につきましては何らかの手は打たないといけなものと考えております。その中にありまして、きょう田島議員のこの質問でございますけど、先ほど課長が答弁いたしましたように、いいものは確かにいいと。いいが、これをやり遂げるまでにはやはり年数というものがかかる訳でございます。メタセの杜にいたしましても国府の郷にいたしましてもやはり4年から5年かかっている。この芦屋町の地域性を考えた場合に、やはり商工会、観光協会、それから漁業者、それからJA、この団体の人たちの協力がないと、みんなの協力、気持ちがないと私はできないと思っております。

今まで私も、議員になる以前、商工会のいろんな役員を、青年部長から執行委員の理事、いろいろさせていただきました。その間においていろんな案、いろんなプランも出てきました。そのたびに国の補助金、県の補助金、町の補助金、いろいろ使ってやった訳です。恐らく商工会にはそういういろんなまちづくりの活性化の冊子というのがたくさんあると思います。一つも目の目にあっておりません。

要は、私は行政はあくまでもサポートしていくんだと認識しております。要は、その人たちのやる気、会議を確かに立ち上げました。3回はします。あともう5回、6回、人が来なくなる。じゃ、補助金もらっているんで、それは報告書を書かなくては。はい、報告書を書きました。じゃ、その報告書を書いて、それを実際行動に移したか、なかなかそれができてないというのが現状であります。

要は、私は何が言いたいかと申しますと、今回、このメタセの杜に行かれた方というのは、商工会が主です。商工会10人、観光協会が1名で行政が1名。このまちづくり委員会というもの、これも規約もない会だと私は認識しております。やはり今から商工会、漁業従事者、JA、観光協会、ほんとに今田島議員が力強く言われましたように、その人の、やる気のある人が集まって、そして真摯に、真剣に研究してやると、この気持ちがあれば行政は必ずやります。間違いなく。私も前々からこのように物産館、そういうふうなJAの直売所、芦屋だけないんです。水巻の猪熊になる、役場の横にある、岡垣にもある。常々JAの高山組合長に、何で芦屋だけないんですか、つくってくれないんですかという話を常々しています。そういうことで、まあ今も議員申されたように、やりたいというその気持ちをぜひ継続していつにいたいで、仲間をふやしていただいて、そしてやっていただきたいと思っております。

私も皆さんに聞かれて、すぐ物産館を建設いたしますとはっきり言いたいのでございますが、過去がそういうことでございます。私もぜひやりたいという強い気持ちを持っておるということでご容赦願います。

**○議長 横尾 武志君**

田島議員。

**○議員 3番 田島 憲道君**

ありがとうございます。芦屋には、芦屋時間、役場時間というものがあるそうです。ぜひとも強いリーダーシップのもとに、スピーディーに実現していただきたい政治課題であります。今後顔を合わせるたびに言い続けますので、以上で私の質問を終わりたいと思います。

**○議長 横尾 武志君**

以上で、田島議員の一般質問は終わりました。